2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会	主 査 名：高橋 正樹 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：宗方 淳
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究を発展させるための組織的取り組みを行う。 ・ 具体的には、前身の小委員会で開催されてきた「環境心理チュートリアル」を継続的に開催すると共に、現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題および研究発展のための方策を検討して、実施する。 初年度～4 年度 1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 2) 交流活動の推進(公開研究会、見学会等) 3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等)	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：高橋正樹 (文化学園大学) 幹事：小崎美希 (お茶の水女子大学) 委員：榎 究 (実践女子大学)、小島隆矢 (早稲田大学)、上野佳奈子 (明治大学)、大石洋之 (東北工業大学)、古賀誉章 (宇都宮大学)、佐野奈緒子 (東京電機大学)、高橋浩伸 (熊本県立大学)、辻村壮平 (茨城大学)、長澤夏子 (お茶の水女子大学)、西原直枝 (聖心女子大学)、川井敬二 (熊本大学)、大井尚行 (九州大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	チュートリアル運営 WG 環境心理生理分野の研究発展のための一助として、様々な研究技法や分析手法の普及と研究レベルの向上を担い「環境心理チュートリアル」を継続的に開催する。 環境心理教育検討 WG 環境心理研究の初学者の理解・習得の過程、環境心理教育事例を検討し、課題の整理と新しい研究実践に対応した教育方法の基礎を構築する。 ・ 社会への還元をめざし、小・中・高等学校から大学、設計者などに有用な環境心理学的知見や教育方法を検討する。	
2019 年度予算	138,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	環境心理小委員会：4 回 (年度内開催予定を含む) ・ チュートリアル運営 WG：4 回 (年度内開催予定を含む) ・ 環境心理教育検討 WG：4 回 (年度内開催予定を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 19 回 環境心理生理チュートリアル「Web アンケート調査の作法と技法 質問“紙”からの卒業～」 (資料名) 同上 参加者数 72 名
大会研究集会	なし

対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>十分な成果が得られている。</p> <p>1. 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 例年通り、年一回の開催を実現した (2019年9月17日: 第19回環境心理生理チュートリアル)。Web アンケート調査の作法と技法についての全体像から実際まで、役立つ情報の提供が成された。</p> <p>2. 交流活動の推進(公開研究会等) チュートリアル WG において実施した公開チュートリアルでは、72名の参加者があり、会員外からも4名の参加があった。質疑応答では、参加者自身が取り組んでいる研究について活発な議論が行われ、研究者同士の交流が推進された。</p> <p>3. 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 今年度は、環境心理教育検討 WG において若手の研究者を新たに迎え、教育・研究手法の紹介や現状での問題点及び今後のあり方等について議論を行った。</p> <p>4. 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等) 環境心理教育検討 WG において、環境心理学の知識等の教育分野を中心とした社会全般への還元方法について、意見交換した。 また、チュートリアルWGにおいて、遠方により参加が困難な方に対し、本年度から試験的に Skype 等を利用して実施した。遠隔地の方にもこのような方式で積極的にチュートリアルに参加して頂き、地域による情報格差を解消し、広く環境心理研究の発展を図った。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 特に無し

2019 年度 小委員会活動 自己評価
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>「目標の達成度」においても記述したが、下記の活動を実施し、十分な成果が得られたため、総合評価は A と判断した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 19 回 環境心理生理チュートリアル 「Web アンケート調査の作法と技法 質問“紙”からの卒業～」の開催 上記のチュートリアルで実施した参加者へのアンケート調査では、概ね好評であったとの評価結果を得た。 境心理教育検討 WG では、小・中・高等学校から大学、設計者などに有用な環境心理学的知見や教育方法について、多種多様な資料を得ることができた。 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。